# 2025年3月期 決算説明資料

2025年5月15日



東証プライム・名証プレミア (7389)

本資料におけるあいち銀行の計数につきましては、各項目の適正な期間比較を行う観点から、以下のルールに則り算出した計数を記載しております。

- 過去の計数 旧愛知銀行及び旧中京銀行の計数を合算
- 2025年3月末の計数 あいち銀行の計数
- 2025年3月期の計数 あいち銀行の2024年4月1日から2025年3月31日までの計数と、2024年4月1日から2024年12月31日までの旧中京銀行の計数を合算

## I目次

連結業績・配当	P2
銀行単体決算概要	Р3
コア業務純益	P4
預金	P5
貸出金	P6
ソリューション・預かり資産関連手数料	P7
有価証券	P8
与信コストの推移・不良債権	P9
経費·自己資本比率	P10
業績予想	P11

### |連結業績·配当

▶ 貸出金利息及び役務取引等利益は着実に伸長。統合費用等の増加により、経常利益は前年比減益も、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比増益。

#### あいちFG連結業績

(単位:億円)
---------

	2024/3期	2025/3期	前年比
経常収益	886	1,010	123
経常利益	125	102	▲23
親会社株主 (3) 制属する 当期純利益	82	90	8

#### 配当の状況

- ◆2025年3月期 第2四半期 50円 期末 60円 合計 110円 ※普通配当100円、記念配当10円 (連結配当性向59.3%)
- ◆2026年3月期(予想) 第2四半期 50円 期末 50円 合計 100円 (連結配当性向46.8%)

### 株主還元方針(配当政策)

収益基盤の強化に向けた内部留保を確保しつつ株主に対する還元を通して資本効率の向上を図るため、1株につき100円の年間配当を下限とし、自己株式取得についても柔軟に実施していくことを基本方針とします。

具体的には、配当金と自己株式取得合計の<mark>総還元性向30%</mark>を 目処とします。

#### あいちFG連結損益

(単位・億円)

				(単位:億円
		2024/3期	2025/3期	前年比
1	連結粗利益	564	498	<b>▲</b> 65
2	資金利益	529	504	▲25
3	役務取引等利益	118	125	7
4	その他業務利益	▲83	<b>▲</b> 131	<b>▲</b> 47
5	営業経費	437	477	40
6	貸倒引当償却費用	14	12	<b>▲</b> 1
7	一般貸倒引当金繰入額	<b>▲</b> 9	▲18	<b>▲</b> 8
8	個別貸倒引当金繰入額	20	25	4
9	株式等関係損益	64	126	61
10	経常利益	125	102	▲23
11	特別損益	<b>▲</b> 5	<b>▲</b> 5	▲0
12	税金等調整前当期純利益	120	97	▲23
13	法人税等合計	36	6	▲30
14	当期純利益	83	90	7
15	親会社株主に帰属する当期純利益	82	90	8

### |銀行単体決算概要

#### あいち銀行単体損益

_						
	(単位:億円)	2024/3期	2025/3期	前年比		
1	業務粗利益	515	482	▲32		
2	コア業務粗利益	609	609	▲0		
3	資金利益	516	503	▲13		
4	役務取引等利益	104	114	9		
5	その他業務利益	▲106	▲135	▲28		
6	経費	423	461	38		
7	人件費	198	204	5		
8	物件費	189	220	30		
9	うち統合関連費用	25	54	29		
10	実質業務純益	91	20	<b>▲</b> 70		
11	コア業務純益	185	147	▲38		
12	コア業務純益(除く投信解約益)	166	141	▲25		
13	一般貸倒引当金繰入額	<b>▲</b> 9	▲18	<b>▲</b> 8		
14	業務純益	100	38	▲62		
15	うち国債等債券損益	▲94	▲127	▲32		
16	臨時損益	<b>▲</b> 8	65	73		
17	うち株式等損益	63	130	66		
18	うち不良債権処理額	22	29	6		
19	うち統合関連費用	41	55	13		
20	経常利益	92	103	11		
21	特別損益	<b>▲</b> 4	<b>▲</b> 6	<b>▲</b> 1		
22	うち統合関連費用	0	5	5		
23	法人税等合計	23	1	▲22		
24	当期純利益	64	96	32		

#### 決算概要

- 貸出金利息は増加したものの、預金利息の増加や有価証券利息配当金の減少により資金利益は減少。
- ソリューション関連手数料の増加等により役務取引等利益は増加。
- 経費は人件費、物件費ともに増加。物件費には統合関連費用54億円を含む。
- → 一般貸倒引当金繰入額は戻入が増加し、不良債権処理額は増加も与信コスト全体では減少。
- ▶ 国債等債券損失が増加した一方で、株式等損益等が増加し、経常利益は増益。
- ▶ 銀行合併に伴う繰延税金資産計上の影響等により法人 税等合計が減少し、当期純利益は増益。
- 統合関連費用は経費、臨時損益、特別損益の合計で約 114億円計上。

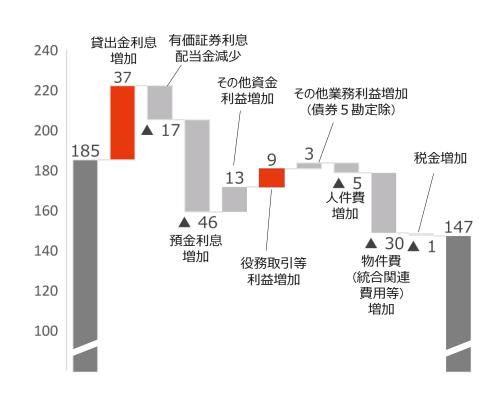
### ┃コア業務純益

▶ 貸出金利息と役務取引等利益は増加したが、有価証券利息配当金の減少や預金利息の増加、ピークとなった統合関連費用の計上等によりコア業務純益は減少。

#### コア業務純益

		(単位:億円)	2024/3期	2025/3期	前年比
1		ア業務粗利益	609	609	▲0
2		資金利益	516	503	▲13
3		うち貸出金利息	360	398	37
4		うち有価証券利息・配当金	184	166	▲17
5		うち預金利息	12	59	46
6	6 役務取引等利益		104	114	9
7	7 その他業務利益(除〈債券 5 勘定尻)		<b>▲</b> 11	<b>▲</b> 7	3
8	終	費	423	461	38
9		人件費	198	204	5
10		物件費	189	220	30
11		うち統合関連費用	25	54	29
12	2 実質業務純益		91	20	<b>▲</b> 70
13	3 コア業務純益		185	147	<b>▲</b> 38
14		コア業務純益(除く投信解約益)	166	141	▲25
15		統合関連費用控除後のコア業務純益	211	201	<b>▲</b> 10
13		Nロヌ と 見用	211	201	<b>A</b> 10

#### コア業務純益の増減要因



5

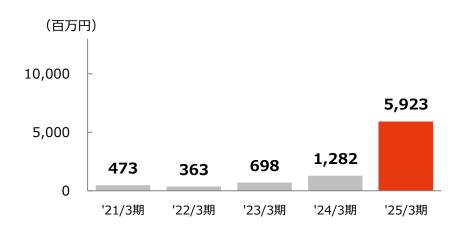
## 預金

▶ 預金残高は法人預金を主体に前年比1,099億円増加。残高増加、利回り上昇により預金利息も大きく増加。

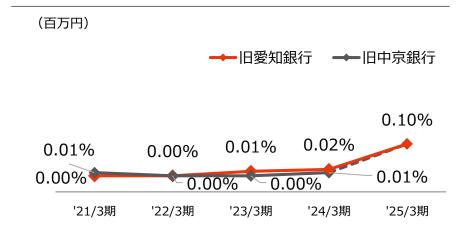
#### 預金残高(末残)の推移



#### 預金利息



#### 預金等利回り

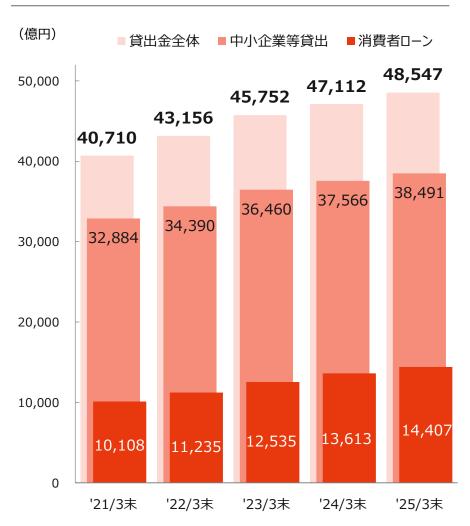


6

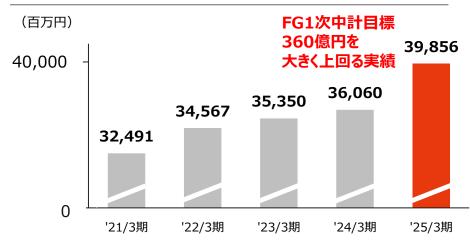
### |貸出金

- 中小企業等貸出および住宅ローンを主体に残高は順調に増加。預貸金合計は10兆8,004億円に。
- ▶ 貸出金利息はFG1次中計の2024年度目標360億円を大きく上回る実績。

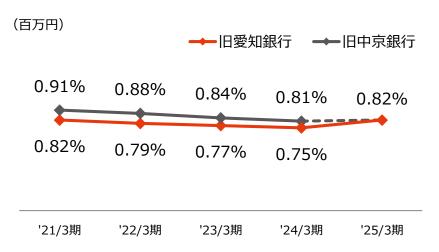
### 貸出金末残の推移



#### 貸出金利息



#### 貸出金利回り

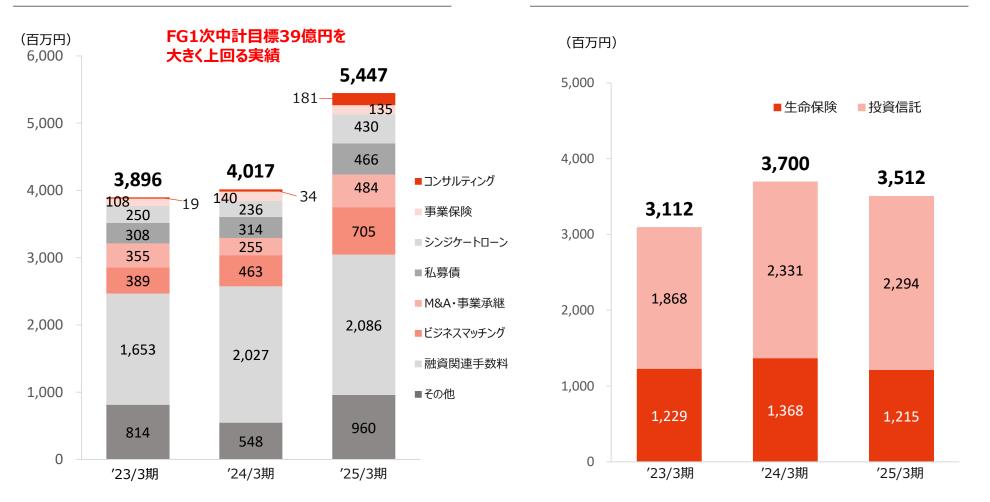


### | ソリューション・預かり資産関連手数料

▶ ソリューション関連手数料はM&A・事業承継、ビジネスマッチング、シンジケートローン等を中心に大きく伸長。FG1次中計の 2024年度目標39億円を大きく上回る実績。

#### ソリューション関連手数料

#### 預かり資産関連手数料



### ▋有価証券

- ▶ 金利・市場環境を踏まえ、保有残高やデュレーションをコントロール。有価証券残高は前年比1,791億円減少。
- ▶ 有価証券評価益は減少も依然として余力ある水準。効率的かつバランスの取れたポートフォリオで安定的な収益確保を目指す。

#### 有価証券残高



#### ※旧愛知銀行およびあいち銀行のデュレーションはアセットスワップによるヘッジ効果勘案後の数値

#### 有価証券評価損益

(単位:億円)

			2024/3期	2025/3期	前年比
1	評	<b>面損益合計</b>	1,170	692	<b>▲</b> 477
2		株式	1,181	960	▲221
3		債券	▲187	▲378	<b>▲</b> 190
4		外国証券	<b>▲</b> 11	<b>▲</b> 2	8
5		その他	186	112	<b>▲</b> 74

#### 有価証券関連損益

(単位:億円)

8

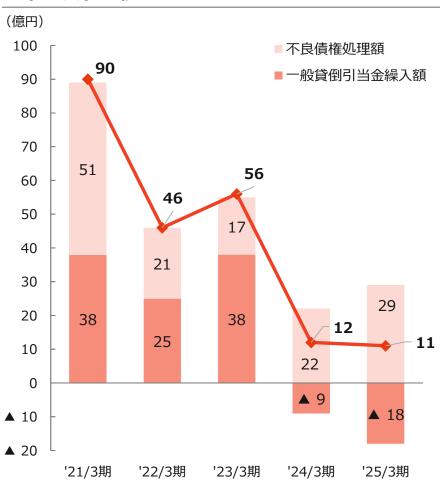
			2024/3期	2025/3期	前年比
1	有価証券利息配当金		184	166	▲17
2	投信解約損益		18	6	<b>▲</b> 12
3	有価証券関係損益		▲31	3	34
4		国債等債券損益 (債券5勘定尻)	<b>▲</b> 94	▲127	▲32
5	株式等損益 (株式3勘定尻)		63	130	66
6	合計		152	169	16

9

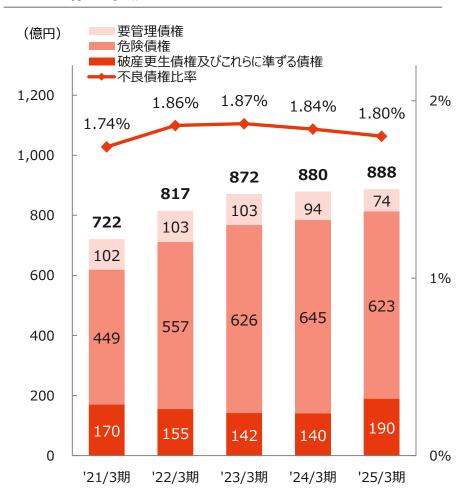
### | 与信コストの推移・不良債権

- ▶ 取引先の倒産やランクダウンにより不良債権処理額が増加した一方で、要注意債権残高の減少やグループ引当の見直しにより、 一般貸倒引当金は戻入となり、与信コストは1億円減少。
- 不良債権比率は0.04ポイント低下し1.80%。

#### 与信コスト推移



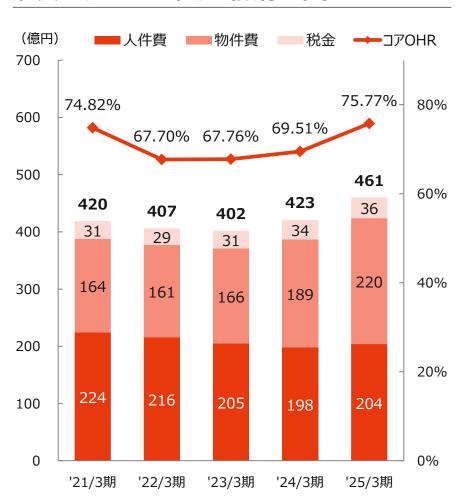
#### 不良債権の状況



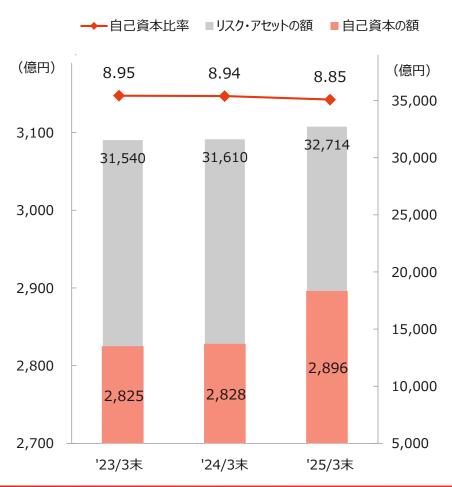
### | 経費·自己資本比率

- ▶ 物件費の増加が主因で経費全体も増加し、コアOHR75.77%に上昇。人件費の増加要因はあるが統合関連費用が大きく減少していくことで、FG2次中計最終年度の2028年3月期にはコアOHR70%未満を目指す。
- 自己資本比率は0.09ポイント低下し8.85%。

#### 経費・コアOHRの状況(銀行単体)



#### 自己資本比率の状況(FG連結)



### |業績予想

- 2026年3月期のFG連結経常利益予想は前年比47億円増加の150億円。預金利息の増加、有価証券利息配当金の 減少、与信コストの増加、株式3勘定尻の減少等を見込むが、統合関連費用が大きく減少する他、貸出金利息の増加や 債券5勘定尻のマイナスの減少等により、前年比45.9%増を予想。親会社株主に帰属する当期純利益予想は、合併関 連の会計処理に伴う影響が無くなることで前年比15.4%増の105億円を予想。
- 合併シナジーの発揮により、FG2次中計最終年度の2028年3月期連結当期純利益は150億円以上の達成を目指す。

(単位:億円)

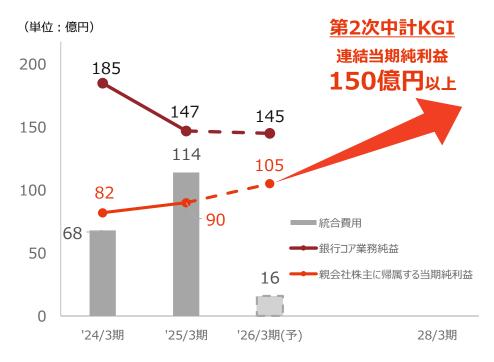
(単位:億円)

F	G	追	I,	結

		2025/3期	中間期予想	2026/3期 予想	前年比
1	経常利益	102	69	150	47
2	親会社株主に 帰属する 当期純利益	90	45	105	14

-	- 77		V	
숙	= 1/2	7 8	= /	64
	XXIII			44

		2025/3期	中間期予想	2026/3期 予想	前年比
1	コア業務純益	147	64	145	<b>▲</b> 2
2	経常利益	103	68	148	44
3	当期純利益	96	45	104	7



- ●本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。
- ●こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ●将来の業績は経営環境の変化等により、異なる可能性があることにご留意ください。

#### <お問合せ先>

株式会社あいちフィナンシャルグループ グループ経営企画部

TEL: 052-262-6512 FAX: 052-262-6517

URL : https://www.aichi-fg.co.jp/